

日本、ネパールの政府関係者含む約250名で約2,500本の植樹 7月7日（土）ネパールの世界遺産で「植樹祭」を実施

株式会社山田養蜂場（本社：岡山県苫田郡鏡野町 代表：山田英生）は、2018年7月7日（土）に、ネパールの世界遺産「チャングナラヤン寺院」にて植樹祭を実施しました。植樹祭には、駐ネパール日本国特命全権大使西郷 正道（さいごう まさみち）氏をはじめ、日本、ネパール両国の政府関係者が出席し、弊社従業員を含むボランティアメンバー総勢約250名で、ヒメツバキやモチノキなどの広葉樹を約2,500本植えました。また、この植樹祭以外の日程でも後日約500本の植樹を行う予定で、今年の植樹総本数は3,000本になります。

今回の植樹は、植物生態学の第一人者である横浜国立大学名誉教授 宮脇昭（みやわき あきら）氏が提唱している「宮脇式植樹」を、同大学名誉教授 藤原一繪（ふじわら かずえ）氏のご指導のもと実施しました。「宮脇式植樹」では、現地の植生に合った苗木を密植・混植し、本物の森づくりを行っています。

■5カ年計画の最終年

世界遺産であり世界最古のヒンズー教寺院である「チャングナラヤン寺院」は、標高約1,500mに位置し、近隣の斜面は急勾配で、雨季に大雨が降ると土砂崩れを起こす危険がありました。そこで、木々が地中深く根を張り、土砂崩れを防ぐための森づくりを目指しました。2014年から5カ年計画で植樹を開始し、本年は最終年でした。この5年間で合計11,500本の植樹を実施し、現地の方へ樹木の管理指導も行いました。この地での弊社が行う植樹は本年で終了しましたが、今後は現地の方が自身で、本物の森づくりを進めてまいります。



▲植樹に参加した日本とネパールのメンバー



▲世界遺産「チャングナラヤン寺院」にて植樹する参加者

■山田養蜂場の植樹活動

養蜂業を原点とする弊社では、「自然との調和」を理念に掲げており、未来を担う子供たちに豊かな自然環境を受け渡す責任があると考え、1999年より国内外にて植樹活動を続けています。

ネパールでの植樹活動は、1999年より実施しており本年で20年目を迎えます。本年含め、同国では46万本以上の植樹を行っています。（国内、中国も合わせると210万本以上）

私たちの植えた木が、自然を回復し、人々の命を守る本物の森になってくれることを願っています。

<日本から姉妹で参加した方の感想>

- 元々、ネパール文化に興味があり、ただ観光するのではなく、より身近にネパールの人や文化に触れたいと思い、植樹に参加しました。植樹を一緒に行った子供たちとは、言葉が通じなくても息を合わせて協力することができました。
- 藤原先生の講演会で事前に活動の意義を学んだ上で植樹を行うことができました。植樹は、さまざまな命を育む森を作ることであり、自分がその一端を担えるという経験は、人生の中でもなかなか得ることのできないことだと思いました。



◇本件に関するお問い合わせ◇

株式会社山田養蜂場 文化広報室 関 (ts0975@yamada-bee.com)、秦 (kh1967@yamada-bee.com)
〒708-0393 岡山県苫田郡鏡野町市場194 TEL：0868-54-1906 FAX：0868-54-3346